

共創モデル実証運行事業の進捗について (報告事項)

報告事業の概要

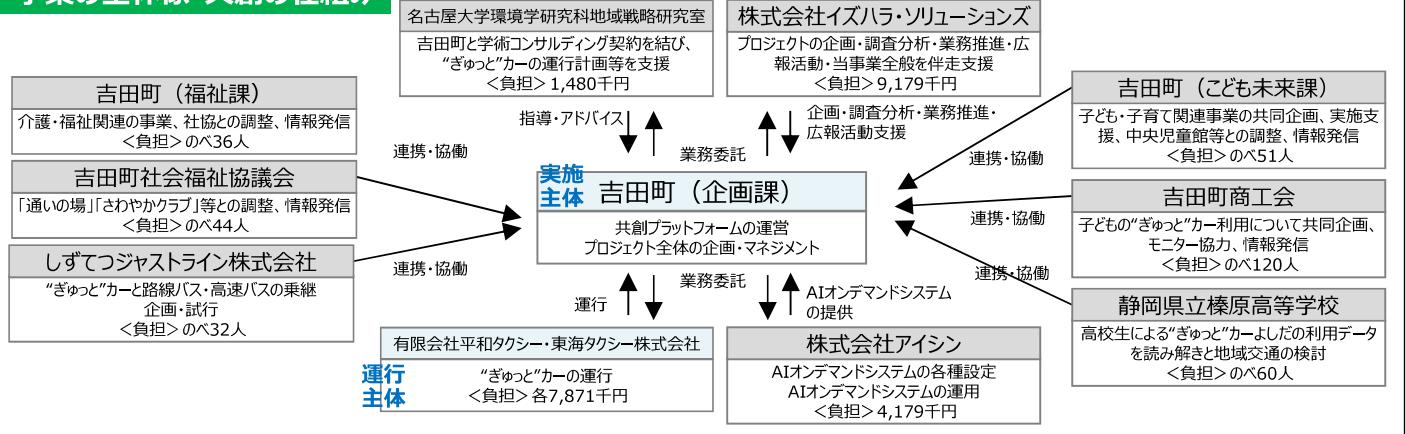
共創モデル実証 運行事業の概要	交通を地域の暮らしと一体として捉え、地域の多様な関係者が連携・協働した取組を通じて、地域交通の維持・活性化を図る事業を支援
本年度テーマ	“ぎゅっと” カーよしだの活用で、子育て世代等の送迎負荷軽減とみんなで実験データを読み解き地域交通を考える機運づくり
共創パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ① 吉田町（企画課、こども未来課、福祉課） ② 有限会社平和タクシー ③ 東海タクシー株式会社 ④ しづてつジャストライン株式会社 ⑤ 株式会社アイシン ⑥ 吉田町商工会 ⑦ 名古屋大学環境学研究科地域戦略研究室 ⑧ 株式会社イズハラ・ソリューションズ ⑨ 吉田町社会福祉協議会 ⑩ 静岡県立榛原高等学校
事業の進捗	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和7年7月13日 “ぎゅっと” カーよしだデータ読み解き会開催 ● 令和7年7月22日 榛原高校探求授業にて公共交通に係る講話（名古屋大学） ● 令和7年7月26日 伝実行委員会主催イベント「伝」に参加 (後援：吉田町、吉田町教育委員会、吉田町商工会)

“ぎゅっと”カーよしだの活用で、子育て世代等の送迎負荷軽減とみんなで実験データを読み解き地域交通を考える機運づくり

応募様式A

吉田町地域公共交通協議会

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

■事業の目的：まちづくりと連携した面的な交通ネットワークを構築し、自家用車に頼らず、町内どこでも利用できる公共交通サービスを実現する。特に、高校生等子どもと高齢者が気兼ねなくお出かけできるまちをめざす。

①吉田町（企画課、ごみ未来課）、商工会と共に、タクシーや塾や個人の子供の移動について、子育て世代の送迎負担の軽減と子ども移動環境の改善に取り組む。商工会との連携で、運行計画を作成しモニターによる試行、キャッシュレス決済の導入等でPDCPAを回し、「ぎゅうど」カーの新たな活用方法を検討し、運行形態の追加・変更に取り組む。

②吉田町（企画課）、樺原高校、名古屋大学等が連携・協働し、これまでの実証実験の利用実績やアンケート調査結果等を活用し「みんなで『ぎゅうど』カーのデータを読み解き地域交通を考える会」などを企画、実施する。

③吉田町（企画課）、社会福祉協議会が連携・協働し、吉田町で開催されるイベントへの「ぎゅうど」カー特別便を企画し、テスト運行する。高齢者のお出かけのきっかけづくりに貢献できるしくみを検討し、「ぎゅうど」カーの新たな活用方法を探り、運行形態の追加・変更に取り組む。

(地域の関係者との連携・協働)

- ・吉田町と商工会、社協が参画し、「ぎゅっと」カーラの柔軟な活用方法を見つけ、時間や曜日で使い分ける「時間割」を導入することで、移動に係るストレスで何かをあきらめなくてよい暮らしを実現できる人が増えると期待している。
- ・高校生、大学生、高齢者などさまざまな年齢や立場の人が、「ぎゅっと」カーラの利用実績やアンケート結果のデータを読み解き意見交換する機会をつくることにより、自分ごとして、また、さまざまな環境の人たちに思いを馳せ、吉田町の地域交通を考える機運を醸成する。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

- 既存「さゆと」カース、運行形態が1つ（誰もがフルテマント型で利用可能）だが、ニーズや利用実態に合わせ、運行内容を時間により変え、効率的で合理的な仕組みにする。
- キヤンシレス決裁の導入により、既存バス路線への乗り継ぎの促進とデータ収集を図る。
- 住民による地域公共交通の検討会意見交換会を契機に、公共交通事業者や市長のミニワークショップを図り、将来的な地域交通を建設的に共創する関係性を構築する。

“ぎゅっと”カーよしだの活用で、子育て世代等の送迎負荷軽減とみんなで実験データを読み解き地域交通を考える機運づくり

底幕樣式A

吉田町地域公共交通協議会

事業実施手順・スケジュール

(以下 略)

【例】 ■：補助対象 ➡：実施／試行 ⚡：調査・企画・準備 ★：地域公共交通協議会の開催